

「垣老」継続は未定？

先日、委員会のなかで中田議員が「垣老」は継続ですか？と質問されました。行政担当者から返ってきた応えは「今後は未定」とのことでした。

わたしは今後数年間は、「垣老」存続のための重要な局面を迎えるのではないかと感じています。なぜなら政府は75歳以上をも医療費の窓口負担原則2割とする検討を財政審議会で行っているからです。

「垣老」は大垣の宝

現在、国の制度では、75歳以上の後期高齢の方が医療費1割負担の対象です。ほとんどの自治体はそれになっています。下の図は、平成30年度の高齢者の窓口負担の表です。大垣市は、全国でも珍しい70歳から窓口負担1割の制度をもっています。これが「垣老」

「垣老」を守りたい

といわれる制度です。全国的には自己負担2割になるところを、大垣市は独自に市財政から1割分の助成をして、高齢者が安心して医療にかかれるようにしています。

年齢	～69	70～74	75～
大垣市	3割	1割	1割
岐阜市	3割	2割	1割
国	3割	2割	1割

*原則であり、現役並み所得の人は3割負担

「垣老」については、本当に助かると高齢者からは評判です。1割負担と2割負担の差は、定まった年金で暮らす高齢者にとっては重大です。しかも高齢になると身体のあちこちが不調をきたします。お金のことを気にして医者にかかるのが遅れてしまう例も少なくありません。年金受給者の3分の1が基礎年金のみで、その平均支給月



はんざわ多美

額4万4千円(全国)とも言われています。病気は年金の多い少ないにかかわらずだれにでも起こるので、やはり誰もが安心して受診ができる制度が必要だと強く感じます。

「垣老」を守り抜く

高齢者からの「医療費がたくさんかかるのでこれから先が心配」「年金が下がってきているのでお金が足りるか心配」という声があります。本当に切実な訴えだと感じています。

「垣老」はある程度、国の制度との連動で考えざるを得ない点がありますが、大垣市に対しての市民の粘り強い運動の成果によって守ってきた制度です。老後も安心して暮らしていくためのこの制度を必ず守っていきたいと思います。